

幕別町障がい者福祉計画
第5期幕別町障がい福祉計画
第1期幕別町障がい児福祉計画の策定に関する
アンケート報告書
(町民アンケート)

平成30年 1 月

幕 別 町

目 次

第1編 アンケートについて	1
第2編 調査結果	
1 町民用	
問1 記入者の性別	2
問2 記入者の年齢	2
問3 記入者が住んでいる地区	2
問4 家族などに障がいのある方の有無	3
問5 障がいのある方への関心	3
問6 関心がある理由	4
問7 障がいのある方にどんな支援や活動をしてみたいか	5
問8 社会には障がいを理由とする差別や偏見があると思うか	5
問9 10年前と比べて差別や偏見は改善されていると思うか	6
問10 普段の生活の中で障がいのある方への対応や理解が十分にあるか	6
問11 対応や理解が足りないと思うのはどんな場合か	7
問12 職場に障がいのある方が働いているか	8
問13 障がいのある方がもっと働けるようにするためには	9
問14 障がいのある方が地域や社会に積極的に参加していくためには	10
問15 幕別町における障がいのある方への施策に満足しているか	11
問16 障がいのある方への施策に関するご意見・ご要望（自由記載）	12

第1編 アンケート調査について

1 調査の目的

この調査は、平成29年度を初年度とする幕別町障がい者福祉計画・第5期幕別町障がい福祉計画・第1期幕別町障がい児福祉計画の策定にあたり、町民の皆様が日常、どのように障がいのある方と関わりを持ち、町として取り組むべき課題をどのようにお考えなのかをお聞きし、同計画の策定にあたっての基礎資料とし、今後の障がい福祉施策に反映することを目的として実施しました。

2 調査の実施

(1) 町民用～300人

20歳以上の幕別町民から300名を無作為抽出

3 調査の方法

配布は郵送で行い、回答は返信用封筒での郵送で行ないました。

4 調査の期間

平成29年9月11日～9月29日

5 調査の回収状況

区分	発送数	回答数	回答率
町民用	300人	122人	40.7%

6 報告書の見方

- (1) 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基礎として、小数点第2位を四捨五入して算出しています。このため、合計数が100%とならない場合があります。
- (2) 回答の選択肢や自由意見は、簡略化して表現している場合があります。
- (3) 回答結果で網掛けになっている箇所は、単数回答形式で1番多かった回答、複数回答形式で3番目まで多かった回答となっています。ただし、「その他」や「無回答」の回答は除いています。

第2編 調査結果

1 町民用

あなたご自身（記入者）のことについて

問1 あなたの性別はどちらですか。（1つに○）

		総数	122
	回答	件数	割合
1	男性	52	42.6%
2	女性	70	57.4%
3	無回答	0	0.0%

問2 現在のあなたの年齢は何歳ですか。（1つに○）

		総数	122
	回答	件数	割合
1	20-29歳	5	4.1%
2	30-39歳	14	11.5%
3	40-49歳	15	12.3%
4	50-59歳	21	17.2%
5	60-69歳	34	27.9%
6	70歳以上	33	27.0%
7	無回答	0	0.0%

問3 あなたがお住まいの地区はどちらですか。（1つに○）

		総数	122
	回答	件数	割合
1	幕別市街地区	24	19.7%
2	札内市街地区	82	67.2%
3	幕別札内農村地区	8	6.6%
4	忠類市街地区	6	4.9%
5	忠類農村地区	2	1.6%
6	無回答	0	0.0%

問4 家族などに障がいのある方はいますか。(複数回答)

【調査結果】

50人の方(約4割)が、同居または同居していないが、家族や親族に障がいのある方がいる(いた)と回答している。

		総数	125
	回答	件数	
1	同居している家族・親族に障がいのある方がいる(いた)	19	
2	家族・親族に障がいのある方がいるが、同居はしていない	31	
3	家族・親族に障がいのある方はいない	70	
4	無回答	5	

障がいのある方とのかかわりについて

問5 あなたは、障がいのある方について関心がありますか。(1つに○)

【調査結果】

約8割の方が、「非常に関心がある」・「ある程度関心がある」と回答している。

		総数	122
	回答	件数	割合
1	非常に関心がある	20	16.4%
2	ある程度関心がある	76	62.3%
3	あまり関心がない	20	16.4%
4	まったく関心がない	3	2.5%
5	無回答	3	2.5%

問6 問5で「1. 非常に関心がある」「2. ある程度関心がある」と答えた方にお聞きします。
どのような理由から、関心をお持ちですか。(複数回答)

【調査結果】

関心がある理由として、「街なかやテレビなどで障がいのある方のことをよく目にするから」と回答した方が最も多かった。

		総数	96
	回答	件数	
1	家族などに障がいのある方がいる(いた)から	40	
2	学校や職場、近所などに障がいのある方がいる(いた)から	40	
3	福祉活動やボランティア活動をしている(していた)から	8	
4	保健・医療・福祉に関する職業についている(ついていた)から	10	
5	街なかやテレビなどで障がいのある方のことをよく目にするから	43	
6	その他	5	
7	無回答	2	

6	その他の記載内容
	障がい児に関わる仕事をしているから
	障がい者にはいつ自身もなるかもしれないから(事故や病気で)
	新聞等で最近はとり上げられる事も多くなったと感じる
	大学の講座内容・実習で現地に行った事があるので(施設)
	自分や家族も病気や事故で、障がいを持つ体にならないとは限らないので、他人事とは思えないです。

問7 あなたは、障がいのある方に対してどんな支援や活動をしてみたいですか。（複数回答）

【調査結果】

問6と同じく、「街なかで見かけた障がいのある方に対して援助したい」と回答した方が最も多かった。

		総数	122
	回答	件数	
1	障がいのある方に対する知識・援助の仕方について学び、支援したい	32	
2	障がいのある方に対してボランティア活動をしたい	10	
3	施設などの行事の手伝いをしたい	5	
4	街なかで見かけた障がいのある方に対して援助したい	59	
5	その他	5	
6	無回答	11	
5	その他の記載内容		
	偏見を持たずに普通に接する事。身近な障がい者が困っていたら普通に手助けする		
	普通にしたい。		
	ボランティア活動中、施設等の行事など手伝っている。		
	出逢った方や家族の中に障がいがある状況になった時にはその相手に必要な支援と自分が動ける力を考えてできる活動をしたい。		
	知識は必要と考えるが、直接支援する必要のない状態がベストと考えるので、何かしたいことはない		

問8 あなたは社会には障がいのある方に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。（1つに○）

【調査結果】

7割以上の方が、「あると思う」・「少しはあると思う」と回答している。

		総数	122
	回答	件数	割合
1	あると思う	36	29.5%
2	少しはあると思う	54	44.3%
3	ないと思う	12	9.8%
4	わからない	4	3.3%
5	無回答	16	13.1%

問9 問8で「1. あると思う」「2. 少しはあると思う」と答えた方にお聞きします。
10年前と比べて障がいのある方に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。
(1つに○)

【調査結果】

7割以上の方が、「かなり改善」「少しずつ改善」と回答している。

		総数	90
	回答	件数	割合
1	かなり改善されている	12	13.3%
2	少しずつ改善されている	54	60.0%
3	あまり改善されていない	10	11.1%
4	改善されていない	3	3.3%
5	どちらともいえない	7	7.8%
6	わからない	5	5.6%
7	無回答	2	2.2%

問10 あなたの普段の生活の中で、障がいのある方への対応や理解が十分にあると感じますか。
(1つに○)

【調査結果】

約7割の方が、「全然足りない」「少し足りない」と回答している。

		総数	122
	回答	件数	割合
1	全然足りないと思う	27	22.1%
2	少し足りないと思う	57	46.7%
3	あると思う	13	10.7%
4	わからない	17	13.9%
5	無回答	8	6.6%

問11 問10で「1. 全然足りないと思う」「2. 少し足りないと思う」と答えた方にお聞きします。
それはどんな場合ですか。(複数回答)

【調査結果】

「仕事や収入」、「交通機関や建築物の配慮」、「街なかでの人の視線」について、障がいのある方への対応や理解が足りないと感じている方が多い。

		総数	84
	回答	件数	
1	教育の機会	21	
2	仕事や収入	60	
3	近所づきあい	21	
4	地域の行事や集まり	18	
5	店員の対応や態度	16	
6	医者にかかりにくいこと	5	
7	交通機関や建築物の配慮	53	
8	街なかでの人の視線	39	
9	行政職員などの対応や態度	15	
10	その他	4	
11	無回答	2	
10	その他の記載内容		
	年配の方たちの発言が一番きついと思います。理解しようとしな。バカだと言うレッテルをすぐはる		
	様々な障がいに対する知識が無いため、障がいに対する理解が十分ではないと思う。		
	進学の相談		
	世の中には自分と異なる状況の方たちが数も多く状況も多様に生活しているという認識		

障がいのある方が働くことについて

問12 あなたの職場では、障がいのある方が働いていますか。（複数回答）

【調査結果】

22名の方が「障がいのある方が働いている」と回答し、40名の方が「障がいのある方は働いていない」と回答している。

		総数	122
	回答	件数	
1	身体に障がいのある方が働いている	10	
2	知的障がいのある方が働いている	7	
3	心の病がある方が働いている	5	
4	いずれの方も働いていない	40	
5	わからない	14	
6	自分が働いていないので答えられない	37	
7	その他	2	
8	無回答	14	
7	その他の記載内容		
	仕事は昨年でやめてる		
	発達障害の方がいます		
	「障がい」をどの基準で「ある」と考えるかによって回答が異なるかと思われます。例えば「臭覚が失われている」という方は働いておられますがこの回答の「1」に該当するのでしょうか？		

問13 障がいのある方が、もっと働けるようにするためには、どのようにすればよいと思いますか。（複数回答）

【調査結果】

「福祉作業所などでの就業を拡大する」の回答が最も多く、次いで「会社や事業所へ雇用するための財政支援を充実する」、「行政がもっと障がいのある方を雇用する」、「就学中の障がいのある児童・生徒に対して、きめ細やかな進路指導を行う」という回答が多い結果となった。

	総数	122
回答	件数	
1 行政がもっと障がいのある方を雇用する	54	
2 会社や事業所等へ雇用するための財政支援を充実する	59	
3 福祉作業所などでの就業を拡大する	78	
4 就学中の障がいのある児童・生徒に対して、きめ細やかな進路指導を行う	54	
5 特に行政がすべきことはない	1	
6 わからない	8	
7 その他	6	
8 無回答	4	
7 その他の記載内容		
多くの業種で体験実習を増やす		
企業にもどの程度の障がいの方が仕事を探しているのか情報がほしい		
自分で、自分の力で生きて行く教育を。公的支援も必要だが、親と行政で実施すべきです。		
最近注目されている農業関連分野の開拓を行ってはどうか。		
様々な障がいのある事情を抱えた人たちが常に存在する社会や集団で子供の頃から共に過ごすことを当たり前の社会にしていこう。		
障がいを持つ人が、働きやすい(内容的に、得意な事があると思うので)仕事の誘致など		

福祉のまちづくりについて

問14 障がいのある方が、地域や社会に積極的に参加していくためには、どのようなことが大切だと考えますか。（複数回答）

【調査結果】

「利用しやすい施設への改善」が最も多く、「広報や福祉教育の充実」や「移動しやすい交通機関の充実」といった意見も多い結果となっている。

		総数	122
	回答	件数	
1	魅力的な行事や活動の充実	20	
2	利用しやすい施設への改善	74	
3	移動しやすい交通機関の充実	63	
4	地域の人たちが障がいのある方を受け入れるよう、広報や福祉教育の充実	71	
5	参加を補助するボランティアなどの育成	40	
6	家族の積極性	34	
7	障がいのある方自身の積極性	44	
8	わからない	5	
9	その他	2	
10	無回答	2	
9	その他の記載内容		
	ノーマライゼーションと働く場所だと思います。		
	地域・社会が受け入れる体制・熊勢と人の柔軟に受け入れる力		

問15 あなたは、幕別町における教育や福祉など、障がいのある方への施策に満足していますか。
(1つに○)

【調査結果】

約3割の方が「満足」、「ある程度満足」と回答した一方で、5割以上の方が「わからない」と回答している。

		総数	122
	回答	件数	割合
1	満足している	1	0.8%
2	ある程度満足している	35	28.7%
3	やや不満である	10	8.2%
4	不満である	8	6.6%
5	わからない	66	54.1%
6	無回答	2	1.6%

問16 障がいのある方への施策に関するご意見やご要望がありましたら、ご記入ください。

【調査結果】

21人（有効回答数の17.2%）からご意見・ご要望をいただきました。内容は以下のとおりです。

No.	コメント	カテゴリー
1	行政にまかせっきりにせず、私自身が出来ることや私の廻りの方達にも声をかけ、積極的にかかわりを持っていきたいと思います。	その他
2	とても難しいとは思いますが、軽度の場合だと得意なことがある子もいると思います。その得意なことをのばせることができたならとてもすばらしいと思います。ですが、見つけられるのがどうかもわからないですし別途費用もかかるのだと思います。障がいのある人をサポートするための国からの資金等が不正に使われてしまう世の中なので国の機関直轄で運営する事を考えたほうがまだましな気がします。わが子もいわゆる「グレー」なので、住み良い世の中になってくれたらと思います。	制度について
3	役場の新庁舎や、新しい支所を含む札内コミュニティプラザの建物等の様子からも、幕別町では、障害のある方への認識を大切に、ハード面をすすめてくださっているという事を感じます。様々な状況の人を受け入れて、共に社会で生活する術を常に考え、柔軟に対応していく力の素地を、人の心に培うためには、なるべく幼いころから本人がまず、大切な存在として育まれ、その安定根をしっかりと根づかせられていることが第一歩の最も大切なこととされています。そのためには「次世代育成支援」に関わる施策を、よりきめ細かくし、1人1人の子供に対する丁寧な対応や複数の窓口との連携がいっそう重要と考えます。その一方で、なるべく幼い時から様々な状況を抱えている子たちの集団の中において遊んだり学んだりいろいろな経験をする中で、子供たちの中にはその多様な仲間が存在が共に過ごすことが自然な当たり前の毎日になっていくと思います。そうして育ててやがて社会人になったとき、それぞれの仕事の中で様々な状況を抱えた人が生活していることが前提として認識されて、企画や対応をしていけるようになるのではないかと想定できます。幕別町では、幼保・小学校・中学校の特別支援教育への支援員を多く派遣していると聞いております。これによって地域の幼保・小中学校に多様な状況の子供が通えることが実現可能になっているのだと思います。この支援員派遣の施策を引き続きより充実させていただきたいと願います。長いスパンで考え、このことが障がいのある方の生きやすい社会を築けるものと思います。	障がいの理解について 特別支援教育について
4	障がいと一口で言っても様々な形があるからその程度によって施策というのは全然違ってくると思う。知的に普通能力があっても、ただ手や足が不自由だとかというなら雇用の範囲を広げることによってかなり充実してくると思う。でも私自身も経験したことだけれどボランティアをしていた時に電動車椅子でなければ身動きがとれない子供に対してトイレ掃除だって大切な家事だからとやらせていたというのを聞いて、それははたして自立につながるのだろうかという疑問を持った。絶対に他人の手を借りなければ生きていけない障がい者がいることも事実で、その人たちにとっては自立や収入よりも、むしろ家族がいなくなった後も面倒をみてくれる、終のすみかを充実してあげることが一番の安心なんじゃないだろうか。	雇用について 住まいについて
5	発達障がいのある子供が増加の傾向にあると聞いています。早期発見、早期療育がとても重要だと思います。障がい種の多様化と共に(障がい者の)ニーズも多様化していると思います。相談体制や適切なサービスの提供など一層充実することが必要だと思います。障がい者が将来自立した生活を営むために、社会参加のあり方と就労についての支援体制を充実することが必要だと思います。そのためには、地域住民の障がい者(児)支援についての理解と協力が欠かせないと思います。乳幼児期から高齢者までの連続した支援、発達支援教育から就労までの一環した行政の連携と支援体制が整っていることが大切だと思います。	相談支援体制について 就労支援について 障がいの理解について 関係機関の連携について

6	ご苦労様です。日常接する機会も無く街の中で見受ける事もまれで職場の経験で発達障がいの子供達と接する機会はありませんでしたが、パートという立場で何の知識も勉強もしていない、私はただただ自分の子育ての時の経験と少しの質問するのがやっとで子供達もそれぞれの性格があり、むずかしさを感じた事しか残っていません。ボランティアにしろ私ができることの範囲はないと思ってしまってますので、街の中の手助けくらいは出来るだろうか、したいと言う気持ちは十分に有りますが、知識をどう入れたらいいのか。勉強会はやってますか？	障がいの理解について
7	幕別町障がい福祉計画策定に対する要望。計画策定にあたり必須事業だけではなく、任意事業に関しても他町村が実施していないニーズに対しても、町独自の事業として実施すべきである [障がい者にやさしい町づくりは、健常者にもやさしく住みよい町である] 以下3点要望 1. 教育現場における障がい者に対する、差別ない共生社会教育の充実 2. 知的障がい者の医療費補助(療育手帳B判定者)障がい者年金で複数病院にかかる(3割負担)厳しい幕別町として、全額補助が厳しければ一部補助でも検討すべき 3. 在宅障がい者の家族に対し無縁化が進行しないよう心の訪問ケアのより充実	任意事業の充実について 教育現場における障がいの理解教育について 医療費補助について 家族へのケアについて
8	視力障がいのある友人がいるが、「白杖」の認知度が低いせいか少し体がぶつかったり、杖がぶつかったりした際にひどい言葉を浴びせられることが多々あるという話を聞きました。どんな人にどんな援助が必要なのかを小さいうちから教えてほしいので、教育現場での指導ももっとも必要なのではないかと思います。大人は興味を持たないと知らずともしないので、もっと目につくような場所に広告を出すなど(新聞や商業施設等のトイレとか)周知することに力を入れてほしいです。	教育現場における障がいの理解教育について 情報発信について
9	一人一人の小さな行動・思いやり・理解をもてる様、情報があつたらいいと思います。正しく理解していないと逆方向へむかってしまう、お互いの理解が必要と思います。職場にいる方々とお話ができているので、多少わかっているつもりですが、もっともっと知りたいと思います。	情報発信について 障がいの理解について
10	地方自治体で出来る施策は限られるので厚労省・北海道庁と三位一体で出来る限りの支援を望みますと同時に障がい者自身も出来るだけの自立を目指してほしいと思います。	施策について
11	私自身が歩行困難のため、家の中より出かける時は家族に世話になり買い物もフクハラを一回りするのがやっという状態です。よく思うのは、一休みする「イス」が置いてあればいいなと…。(買い物途中にです)あまり関係のないことかもしれませんが…。障がい者などが集まって運動したり娯楽を楽しんだりする場合は、札内にはあるのですか？もしあるでしたら誰にでもわかるような方法で教えて頂きたいと思います。	集える場について
12	私の周辺には障害のある方がいます。肉体的に(身体的に)外見から障害のあると分かる方とそうでない方もいます。特に精神的な障害とか発達障害の方など自分からカミングアウトしなければ分からず、周囲の理解を得られず、苦しんだり、悩んだりしている方もいらっしゃると思います。昔よりは新聞・テレビなどで取り上げられたりして世の中一般に、認知されるようには、なってきたと思います。が…。私も、まだまだよく分かりません。(理解が足りなくて)それと偏見というのも、世の中には、まだまだあると思います。それらは、やはり、教育とか、日常生活の中に溢れる情報の中に、もっともっととり上げられて、周知されるべきだと思います。皆が幸せで(偏見のない)暮らしやすく、助け合える世の中であつたらと思います。	障がいの理解について
13	障がいの程度によると思うが、行政による財政支援と、地域による支援をもっと積極的に町民が支えていけるようになれば障がいのある人たちや、ご家族の方々にも不断の『くらし』に余裕がある生活ができることと私は思います。	行政と地域の支援について

14	障がい の程度も幅が広く、画一的な対応は、そもそも無理だと思います。個々の状況に応じた柔軟性のある対応が出来る仕組み作り(いわゆる、お役所仕事やマニュアルに沿わないところで、どこまで可能で、どこからはダメなのか)が大切だと思います。	ここに 応じた対応について
15	家族がいて、生活ができて いるうちはいいが、親も年を取り、障がいのある子どもが、1人になった後が不安である。不安を抱えたままでの生活は、少し悲しく 思います。将来も安心できる環境をお願いします。	将来について
16	福祉課の皆様、健常者に対する接し方とは違う面も多々ある と思います。皆様方が頼りとする方が安心出来ますよう、これから よろしく お願い致します。	窓口対応について
17	ボランティア活動されている方との付き合いで、障がい者の作られた作品を買 うとかで、あまり関心を持っておらず、出歩 く事もないので、参考になるような意見はありません。	その他
18	障がいを持つ人がいることに 対し、『当たり前』と思える状態にするには、今、積極的に関わって いく環境づくりを行うことが必要だ と思う。スマホなど、情報が簡単に発信、受信でき、かつてより考え方は大いに変わって きたように感じる。(感動ポルノ、なんて言葉も今の世だから目に入るようになって いる)今の情報化社会であるからこそ、現実 に障がいを持つ人が身近に いる環境づくりを推進してほしい。	障がい の理解について 情報発信について
19	以前、働いていた職場で知的障がいを持った方達が働いて いました。生産ラインの一部を担う作業をして いましたが、彼女達はとて もまじめで、集中力もあり、どんな過酷な労働条件でも文句を言うこと なく作業をして いました。作業内容は選 びますが、雇用する側の理解があれば障 害がある人の働く場所 は増える と思います。行政は、理解ある企業と障がい者の架け橋になるべく積極的な活動を望みます。	雇用について
20	障がい者の自立も大事なことで あり、保護者(両親)が一番思うことは、子どもの将来・・・特に保護者が亡くな ったら?・・・と思うと切ない課題の様に 思う。(不安の解消)安心できる社会の確立が必要と 考える。	将来について
21	障がいのある方が集まる行事などに参加して、自分としてどの位の事ができるのかを知りたい と思っています。私の身近に、障がい の家庭がおりませんのでなかなか積極的に行動に移すことが出来ておりませんが、何か出来るのではと考 えている昨今です。	集える場について

幕別町障がい者福祉計画
第5期幕別町障がい福祉計画
第1期幕別町障がい児福祉計画
の策定に関するアンケート調査報告書
(町民アンケート)

平成30年1月

編集・発行 〒089-0692 幕別町本町130番地1
幕別町住民福祉部福祉課
TEL 0155-54-6612
FAX 0155-54-3839